

(別添 4)

【八百津町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

八百津町では新しい時代を生き抜いていく子どもたちにとって、必要な力の育成を図るために、以下のような姿を目指して取り組んでいる。

- ①物事をいろいろな角度から捉えて考える力の向上
- ②考えたことを周りに伝える表現力の向上
- ③ICT機器を利用し、自ら進んで学習する意欲の向上

ICT機器を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることによって、子どもたちが時代の変化に柔軟に対応し、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けられるように取り組んでいる。

また、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子どもたちに必要な力を育む平等な学びの機会を提供し、誰一人取り残さない教育を目指している。

2. GIGA第1期の総括

本町では令和2年度よりセルラーモデルの端末を整備し、家庭の通信環境に左右されることなく、学校内外における学習にすべての子どもたちが取り組むことができる環境を整備した。さらに授業支援アプリやAIドリルなど様々なデジタルコンテンツを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを推進した。その他にもオンライン会議アプリを利用することで、新型コロナウイルスの影響で出席ができない子どもについても、自宅にしながら授業に参加し学びを継続することができた。令和6年度からは手書きの問題が収録されている新たなAIドリルも導入し、将来的に紙ドリルの脱却に向けて推進している。

各学校の活用状況について毎月調査し、利活用が進んでいない学校については原因の特定及び活用に向けたサポートを行った。これらの取り組みの結果、令和6年度全国学力・学習状況調査では、週3回以上活用する学校は小学校が75.6%（全国平均59.7%）、中学校が89.2%（全国平均64.8%）と高い活用率を達成している。一方で、子どもに対するオンラインを活用した相談・支援については整備できていない状況であり、今後オンラインで子どもがSOSを出せるようなアプリの導入も検討していきたい。また本町はセルラーモデルの端末を導入しているため、学校の位置や学校内でも教室の位置によって通信が繋がりにくいという課題がある。この課題については第2期で通信事業者と協議の上、抜本的な解決に向けて取り組む。

3. 1人1台端末の利活用方策

本町は令和7年度に全ての端末の更新を行い、第1期と同様にセルラーモデルの端末を1人1台整備するべく進めている。第1期に引き続きセルラーモデルの端末を整備することで子どもたちはいつでもどこでも端末を活用でき、日常のあらゆる場面で学びの機会となることを目指す。

これらICT環境の充実を前提として、1人1台の効果的な利活用推進に向けて、次の3つについて取り組む。

(1) 個別最適・協働的な学びを充実させる

端末の整備と併せて、授業支援アプリやAIドリルも整備する。第1期に引き続き授業支援アプリを整備することで、子どもたちが自分の考えをまとめ、発表・表現することや教職員・子ども同士でやり取りすることができるような環境を整える。AIドリルについては、子どもたちが自分の理解度に合わせて課題に取り組めるように整備する。AIドリルが一人ひとりの得意分野と苦手分野を分析することで、子どもたちそれぞれの力が最も伸びるような最適な学習を目指す。

(2) 全ての児童生徒の学びを保障する

不登校の児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒及び障がいのある児童生徒等に対し、端末を活用することで、学びの幅を広げ、さまざまな状況の児童生徒の学習機会を確保していく。各学校の実態にもよるが、端末を活用し、希望する児童生徒に対し、教育相談を行ったり、オンラインでの授業を行ったりすることが考えられる。

(3) 教職員のICT活用格差をなくす

子どもたちの利活用を推進するにあたって、各学校のニーズや課題に応じた教職員へ研修を実施する。また学校の各種部会の中で、導入アプリの効果的な使い方を共有し、どの学校でもICTを十分に活用できるような体制を整える。特にICTを苦手としている教職員に対しては、個別にフォローする等の伴走支援を実施する。

教職員が端末や各種アプリの利活用に積極的になることで、子どもたちの利活用が促進されることを目指す。